

2016年制定 トンネル標準示方書[共通編]・同解説/[開削工法編]・同解説
 正 誤 表
 (2016年制定・第1版に対応)

2016/9/27現在

頁	条番号	区分	箇所	誤	正
—	—	委員構成	トンネル標準示方書改訂小委員会	石川 善大((株)復建エンジニアリング)	石川 善大((株)復建エンジニアリング)
共通編					
4	2.2	解説文	上から1行目	計画, 設計, 施工および施工管理等の...	計画, 設計, 施工および 維持 管理等の...
開削工法編					
58	6.2.3	解 2.6.6	記号の説明	$V_{yd} = V_{cd} + V_{sd}$ (解 2.6.6) ただし、 $p_w f_{yd} / f'_{cd} \leq 0.1$ とするのがよい。 ここに、 V_{cd} : せん断補強鋼材を用いない棒部材の設計せん断耐力で、次式による。 $V_{cd} = \beta_d \beta_p \beta_n f_{vcd} b_w d / \gamma_b$ $f_{vcd} = 0.20 \sqrt{f'_{cd}} \quad (\text{N/mm}^2)$ ただし、 $f_{vcd} \leq 0.72 \quad (\text{N/mm}^2)$ $\beta_d = \sqrt{1000/d} \quad (d: \text{mm})$ ただし、 $\beta_d > 1.5$ となる場合は 1.5 とする。 $\beta_p = \sqrt[3]{100 p_p}$ ただし、 $\beta_p > 1.5$ となる場合は 1.5 とする。 $\beta_n = 1 + 2 M_0 / M_{ud} \quad (N'_d \geq 0 \text{ の場合})$ ただし、 $\beta_n > 2$ となる場合は 2 とする。 $= 1 + 4 M_0 / M_{ud} \quad (N'_d < 0 \text{ の場合})$ ただし、 $\beta_n < 0$ となる場合は 0 とする。 N'_d : 設計軸方向圧縮力 M_{ud} : 軸方向力を考慮しない純曲げ耐力 M_0 : 設計曲げモーメント M_d に対する引張縁において、軸方向力によって発生する応力を打消すのに必要な曲げモーメント b_w : 腹部の幅 (mm) d : 有効高さ (mm) γ_b : 一般に 1.1 としてよい。	$V_{yd} = V_{cd} + V_{sd}$ (解 2.6.6) ただし、 $p_w f_{yd} / f'_{cd} \leq 0.1$ とするのがよい。 ここに、 V_{cd} : せん断補強鋼材を用いない棒部材の設計せん断耐力で、次式による。 $V_{cd} = \beta_d \beta_p \beta_n f_{vcd} b_w d / \gamma_b$ $f_{vcd} = 0.20 \sqrt{f'_{cd}} \quad (\text{N/mm}^2)$ ただし、 $f_{vcd} \leq 0.72 \quad (\text{N/mm}^2)$ $\beta_d = \sqrt[3]{1000/d} \quad (d: \text{mm})$ ただし、 $\beta_d > 1.5$ となる場合は 1.5 とする。 $\beta_p = \sqrt[3]{100 p_p}$ ただし、 $\beta_p > 1.5$ となる場合は 1.5 とする。 $\beta_n = 1 + 2 M_0 / M_{ud} \quad (N'_d \geq 0 \text{ の場合})$ ただし、 $\beta_n > 2$ となる場合は 2 とする。 $= 1 + 4 M_0 / M_{ud} \quad (N'_d < 0 \text{ の場合})$ ただし、 $\beta_n < 0$ となる場合は 0 とする。 N'_d : 設計軸方向圧縮力 M_{ud} : 軸方向力を考慮しない純曲げ耐力 M_0 : 設計曲げモーメント M_d に対する引張縁において、軸方向力によって発生する応力を打消すのに必要な曲げモーメント b_w : 腹部の幅 (mm) d : 有効高さ (mm) $p_w = A_s / (b_w \cdot d)$ A_s : 引張側鋼材の断面積 (mm ²) f'_{cd} : コンクリートの設計圧縮強度 (N/mm ²) γ_b : 一般に 1.3 としてよい。 V_{sd} : せん断補強鋼材により受け持たれる設計せん断耐力で、次式による。 $V_{sd} = [A_w f_{wyd} (\sin \alpha_s + \cos \alpha_s) / s_s] z / \gamma_b$ A_w : 区間 s_s におけるせん断補強鉄筋の総断面積 (mm ²) f_{wyd} : せん断補強鉄筋の設計降伏強度で、 $25 f'_{cd}$ (N/mm ²) と 800 (N/mm ²) のいずれか小さい値を上限とする。 α_s : せん断補強鉄筋が部材軸となす角度 s_s : せん断補強鉄筋の配置間隔 (mm) z : 圧縮応力の合力の作用位置から引張鋼材重心までの距離で、一般に $d/1.15$ としてよい。 $p_w = A_w / (b_w \cdot s_s)$ γ_b : 一般に 1.1 としてよい。
93	10.3	図 2.10.3	タイトル	(b) 自由線がない場合 (c) 自由線がある場合	(b) 自由 線 がない場合 (c) 自由 線 がある場合
179	5.2.4	解説 図 3.5.12	(a) 側圧作用状態	<p>(a) 側圧作用状態</p>	<p>(a) 側圧作用状態</p>